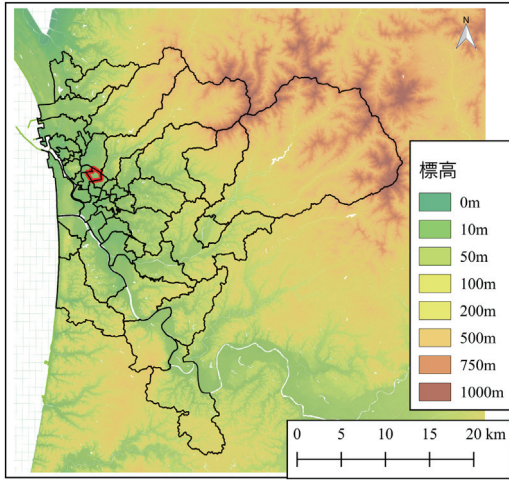


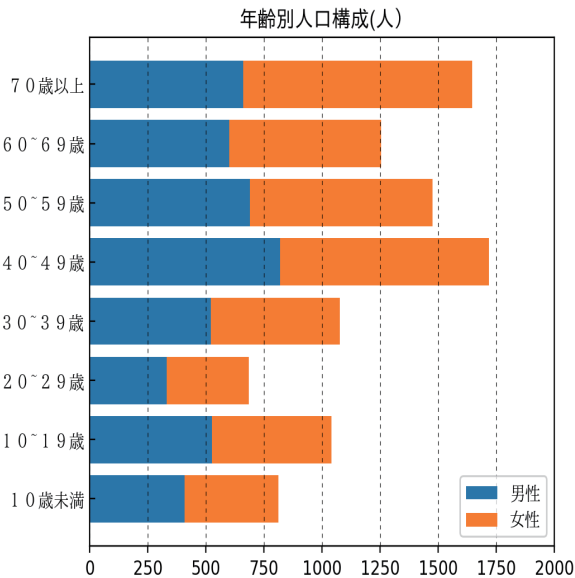
18：泉小学校区

位置図



1 居住者の現況

人口	9,694 人
世帯数	4,462 世帯
65 歳以上人口	2,270 人
10 歳未満人口	812 人



平成 28 年 10 月 1 日現在

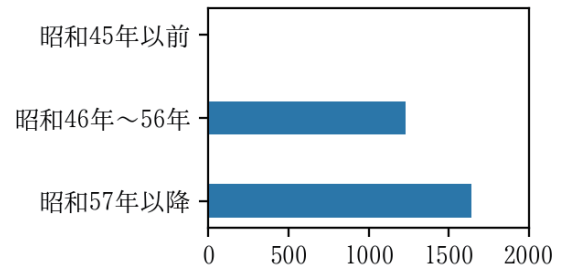
2 建物に関する指標

■ 構造別建物棟数(棟)

	棟
木造建物	2881
非木造建物	543

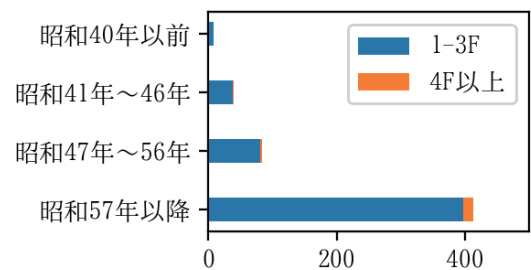
■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

	棟
昭和57年以降	1,645
昭和46年~56年	1,233
昭和45年以前	3



■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

	1-3F	4F以上
昭和57年以降	398	15
昭和47年~56年	81	2
昭和41年~46年	38	1
昭和40年以前	8	0



平成 22 年 8 月現在

自然的・社会的基本指標

秋田市街地の中央部に位置し、地形は平坦であり、沖積層が堆積した地盤となっている。1983 年日本海中部地震では、学区の近傍で液状化が発生した。ほぼ全域に亘って市街化されている。建物、人口とも他学区と比較して多い地域である。人口構成は特に 40 歳台~ 50 歳台の構成比率が高い。65 歳以上の高齢者層は、全体の 23% である。昭和 57 年以降の建築物が全体の 60% を占め、特にこの時期には低層の非木造建物が多く築造されている。

3 自然災害に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 洪水

指定河川	(該当なし)		
浸水面積 (%)			
最大浸水深 (m)			

■ 土砂災害

* 土砂災害危険箇所

種別	箇所数	主な指定箇所
急傾斜地崩壊危険箇所	0	該当箇所なし
土石流危険渓流	0	該当箇所なし
地すべり危険箇所	0	該当箇所なし
なだれ危険箇所	0	該当箇所なし

* 土砂災害警戒区域

種別	箇所数	主な指定箇所
土砂災害警戒区域	0	該当箇所なし
うち土砂災害特別警戒区域をふくむもの		

■ 地震および津波

* 地震 (どこにでも起こりうる直下の地震: M6.9)

平均震度	震度 6 強	
(計測震度)	(6.12)	
震度 6 強以上となる面積 (%)	100	
液状化危険度ランク	5	
建物全壊率 (%)	8.5	

* 津波 (秋田県沖の地震で A,B,C 領域が連動した場合)

浸水面積 (%)	(該当なし)	
最大浸水深 (m)	(該当なし)	

4 災害時要配慮者に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 要支援者関連施設 (収容施設のみ)

種別	施設数
高齢者支援	10
婦人幼児支援	0
障がい者等支援	3

■ 幼稚園・保育所等

種別	施設数
保育所等	4
こども園	2
幼稚園	0

■ 学童支援施設

種別	施設数
児童館等	3

■ 学校等

種別	施設数
小学校	1
中学校	1
高等学校	0
大学・短大・高専	0
養護学校等	0

5 防火・防災施設に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 消防関連施設

消火栓数 (箇所)	74
防火水槽 (箇所)	7
消防車台数 (台)	11
消防ポンプ数 (台)	1
消防団員数 (人)	29

■ 避難所/避難場所 (別表参照)

災害種別	施設数
洪水	5
土砂災害	5
地震	5
津波	0
福祉避難所	7
津波避難ビル	0
津波警報サイレン	0

■ 救急・防災関連施設

種別	名称/箇所数
管轄消防署	秋田消防署
管轄警察署	秋田中央警察署
病院・医院数 (歯科を除く)	8
最寄りの救急告示病院	秋田県立 脳血管研究センター
自主防災組織数	13

自然災害時の危険要素

河川の氾濫による洪水の危険性は想定されていない。平坦な地形であることから内水の氾濫等に注意が必要である。

土砂災害の危険性についても想定されていない。

地震動では、学校区の東部が相対的に揺れにくい。地震動による地盤の液状化が発生する危険性は極めて高い。津波による浸水の可能性は想定されていない。

防災上の課題と対策

泉小学校区は秋田市街地の中心部に位置しており、建物および人口の密集度が高い学校区である。建物の半数以上は新耐震建築物である。木造建物については、大半が複数階以上の建物となっている。人口は漸増傾向にあり、年齢構成の偏りは少なく、30歳～50歳台の比率が高くなっている。

避難場所、避難所はほぼ学校区の中央部にある。避難経路においては、建物の密集度からみて、倒壊物や落下物などによる交通上の阻害要因の発生が懸念される。災害時に火災が発生した場合には延焼しやすいものと考えられる。火災の被害を最小限に押さえるためには出火の防止、初期消火が重要である。出火の防止や初期消火には住民の協力が不可欠であり、住民の防災意識の向上が望まれる。防災に関する知識や防災関連情報の周知・徹底に加え、地域住民

が住民同士の協力関係の構築、地域意識の醸成に努め、日常から適切な防災活動ができるよう支援していくことが有効である。

■ 避難所・避難場所

施設	指定避難所	緊急避難場所					収容人員
		災害の種類（○のみ利用可）					
		洪水	がけ崩れ/ 土石流	地震	津波	大規模火災	
泉中学校（体育館）	○	○	○	○	x	x	591人
泉中学校グラウンド	x	○	○	○	x	x	5,055人
泉地区 コミュニティセンター	○	○	○	○	x	x	120人
泉小学校グラウンド	x	○	○	○	x	x	4,555人
泉小学校（体育館）	○	○	○	○	x	x	333人

福祉避難所

施設	所在地	電話番号
特別養護老人ホーム リンデンバウムいずみ	泉菅野二丁目 17 番 11 号	018-896-5880
リンデンバウムいずみ ショートステイ	泉菅野二丁目 17 番 11 号	018-896-5880
リンデンバウムいずみ デイサービスセンター	泉菅野二丁目 17 番 11 号	018-896-5880
ケアハウス スプリングヒル	泉菅野二丁目 17 番 11 号	018-896-5880
ウェルビューいずみ老人 デイサービスセンター	泉菅野二丁目 17 番 27 号	018-896-6277
ウェルビューいずみ 生活支援ハウス	泉菅野二丁目 17 番 27 号	018-896-6277
ウェルビューいずみ障害 福祉サービスセンター	泉菅野二丁目 17 番 27 号	018-896-6277

津波避難ビル

施設	所在地	利用可能範囲	収容人員
(該当なし)			

津波警報サイレン

施設	所在地
(該当なし)	

